

— 医薬品の適正使用に欠かせない情報です。必ずお読み下さい。 —

## 使用上の注意改訂のお知らせ

2022年8月  
吉田製薬株式会社  
東京都中野区中央5-1-10

制酸・緩下剤

酸化マグネシウム製剤

200mg・250mg・300mg

酸化マグネシウム錠 330mg・400mg・500mg 「ヨシダ」

酸化マグネシウム細粒83% 「ヨシダ」

制酸・緩下剤

日本薬局方 酸化マグネシウム

重カマ「ヨシダ」

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度、標記製品につきまして、**使用上の注意**を改訂(自主改訂)致しましたのでお知らせ申し上げます。今後のご使用に際しましては、下記内容をご参照下さいますようお願い申し上げます。

謹白

—記—

### 1. 改訂内容 (改訂箇所抜粋)

自主改訂 ( 追記 : \_\_\_\_\_ 部、削除 : \_\_\_\_\_ 部 )

改訂後			改訂前		
<b>【使用上の注意】</b> 3. 相互作用 併用注意 (併用に注意すること) (省略)			<b>【使用上の注意】</b> 3. 相互作用 併用注意 (併用に注意すること) (省略)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
テトラサイクリン系抗生物質 (省略) ニューキノロン系抗菌剤 (省略) ビスホスホン酸塩系骨代謝改善剤 (省略) 抗ウイルス剤 (ラルテグラビル、エルビテグラビル・コビシタット・エムトリシタビン・テノホビル ジソプロキシルフマル酸塩等)	これらの薬剤の吸収が低下し、効果が減弱するおそれがあるので、同時に服用させないなど注意すること。	マグネシウムと難溶性のキレートを形成し、薬剤の吸収が阻害される。	テトラサイクリン系抗生物質 (省略) ニューキノロン系抗菌剤 (省略) ビスホスホン酸塩系骨代謝改善剤 (省略)	これらの薬剤の吸収が低下し、効果が減弱するおそれがあるので、同時に服用させないなど注意すること。	マグネシウムと難溶性のキレートを形成し、薬剤の吸収が阻害される。
セフジニル セフポドキシム プロキセチル ミコフェノール酸 モフェチル ペニシラミン	これらの薬剤の吸収が低下し、効果が減弱するおそれがあるので、同時に服用させないなど注意すること。	機序不明	セフジニル セフポドキシム プロキセチル ミコフェノール酸 モフェチル デラビルジン ザルシタピン ペニシラミン	これらの薬剤の吸収が低下し、効果が減弱するおそれがあるので、同時に服用させないなど注意すること。	機序不明

改訂後			改訂前		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
	(省略)			(省略)	
活性型ビタミンD <sub>3</sub> 製剤 (アルファカルシドール、カルシトリオール等)	高マグネシウム血症を起こすおそれがある。	マグネシウムの消化管吸収及び腎尿細管からの再吸収が促進するためと考えられる。	活性型ビタミンD <sub>3</sub> 製剤 (アルファカルシドール、カルシトリオール)	高マグネシウム血症を起こすおそれがある。	マグネシウムの消化管吸収及び腎尿細管からの再吸収が促進するためと考えられる。
大量の牛乳、カルシウム製剤	milk-alkali syndrome (高カルシウム血症、高窒素血症、アルカローシス等) があらわれるおそれがあるので、観察を十分に行い、このような症状が現れた場合には投与を中止すること。	機序：代謝性アルカローシスが持続することにより、尿細管でのカルシウム再吸収が増大する。 危険因子：高カルシウム血症、代謝性アルカローシス、腎機能障害のある患者。	大量の牛乳、カルシウム製剤	milk-alkali syndrome (高カルシウム血症、高窒素血症、アルカローシス等) があらわれるおそれがあるので、観察を十分に行い、このような症状が現れた場合には投与を中止すること。	機序：代謝性アルカローシスが持続することにより、尿細管でのカルシウム再吸収が増大する。 危険因子：高カルシウム血症、代謝性アルカローシス、腎機能障害のある患者。
リオシグアト	本剤との併用に よりリオシグアトの血中濃度が低下するおそれがある。 本剤はリオシグアト投与後 1 時間以上経過してから服用させること。	消化管内 pH の上昇によりリオシグアトのバイオアベイラビリティが低下する。	←追記・挿入		
ロキサデュスタット バダデュスタット	これらの薬剤と併用した場合、これらの薬剤の作用が減弱するおそれがある。	機序不明	←追記・挿入		
炭酸リチウム	高マグネシウム血症を起こすおそれがある。	機序不明	←追記・挿入		
H <sub>2</sub> 受容体拮抗薬 (ファモチジン、ラニチジン、ラフチジン等) プロトンポンプインヒビター (オメプラゾール、ランソプラゾール、エソメプラゾール等)	本剤の緩下作用が減弱するおそれがある。	胃内の pH 上昇により本剤の溶解度が低下するためと考えられる。	←追記・挿入		
ミソprostol	(省略)	(省略)	ミソprostol	(省略)	(省略)

2. 改訂理由 追記:症例集積または相互作用相手薬との記載の整合を図るため。  
削除:相互作用相手薬の販売中止のため。

今回の改訂内容は、医薬品安全対策情報 (DSU) No. 311 (2022年9月) に掲載される予定です。  
改訂後の電子添文は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構ホームページ(<https://www.pmda.go.jp/>)または吉田製薬株式会社ホームページ (<https://www.yoshida-pharm.co.jp/>) の製品情報サイトをご覧ください。